

Chick Corea × Makoto Ozone

世界的ジャズプレイヤーが魅せる
ホットでスリリングなセッション!

2018 **10/24** 水

19:00開演 (18:30開場)

文京シビックホール
大ホール

チケット発売日

5/27 (日)

10:00 から

※発売日のチケットのお求めは、
お一人様4枚までとなります。
お席は選べません。

©Shumpel Ohsugi

チック・コリア × 小曽根 真

〈料金(全席指定・税込)〉 SS席 11,000円 / S席 9,000円 A席 8,000円 / B席 7,000円

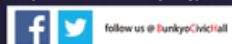
〈チケットのお求め・お問合せ〉 シビックチケット 03-5803-1111 東京都文京区春日1-16-21 文京シビックセンター2F (10:00~19:00 土・日・祝休日も受付。)

下記プレイガイドでもお求めいただけます。

- チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード:112-418) ※PIS、一部携帯電話からはご利用いただけません。
- イープラス <http://eplus.jp/> 【5/28(月)より発売】 ※ご利用には会員登録(無料)が必要です。



シビックホール メンバーズ
インターネット限定で入会金・会費は
無料・先行発売あり!
<http://b-civichall.pia.jp/>



京東就学児の入場はご遠慮ください。※ご予約後の変更およびキャンセルはお受けできません。※出演者は変更となる場合がございます。予めご了承ください。※公演中止の場合を除き、ご入金後の払い戻しはいたしませんのでご了承ください。

伝説のピアノデュオ... ファン待望の復活公演!

世界で活躍するジャズプレイヤー、チック・コリアと小曾根 真。
 多くのジャズファンを魅了した衝撃の全国ツアーから2年6か月。
 待望のセッションが関東では唯一、文京シビックホールにて一夜限りの復活!
 ジャズ界の至宝が奏でるセンセーショナルなピアノデュオをお見逃しなく!



ピアノ
チック・コリア
 Chick Corea

©Toshi Sakurai

今や音楽界のアイコン的存在となったチック・コリア。キーボード・プレイヤー、作曲家、バンドリーダーとしての顔を持つチックは米国ダウン・ビート誌では殿堂入りを果たし、全米芸術基金(NEA)よりジャズ・マスターの称号を授与され、数々のラテン・グラミー賞受賞、また本家グラミー賞に至ってはノミネート63回、22回受賞という歴代4位の記録を誇る。2014年にリリースした「トリロジー」は、これまでの中でも最高傑作と評されている。

60年代後半から70年代初期まで「ジャンルの壁など見向きもしない」マイルス・デイヴィス率いるバンドと活動を共にしたチック。以降正統派からアヴァンギャルド、ビーバップからジャズ・ロック・フュージョン、子ども向けの歌から室内楽・交響曲まで、その後驚異的な数の音楽を経験してきた。

21世紀に入ってからからは、アコースティック・ピアノやエレキ・キーボードを演奏、複数のバンドを率い、ソロ活動や音楽界を代表するアーティストとのコラボなどに取り組んでおり、ダウン・ビート誌のReaders Poll(読者投票)をこの10年で2度受賞していることから、その実力が窺える。2015年も精力的に活動し、親交も深いピアノ界のレジェンド、ハービー・ハンコックと、デュオとして初となる本格的なワールド・ツアーを進行。「ハービーは私の長年の友人であり、師匠でもある。ワールド・ツアーで毎晩のようにステージで彼と演奏したことは、ここ数年で一番、創造を促す源になった。」とチックはコメントしている。

2016年には小曾根真とともにNHK交響楽団定期公演に登場、「モーツァルト:2台のピアノのための協奏曲 変ホ長調 K.365」を演奏。また、日本では初となる小曾根真との全国デュオ・ツアーを成功させ話題となった。2017年は、伝説的なドラマーのスティヴ・ガッドとの音楽的な友好50周年にあたり、その最高点となるアルバム「チャイニーズ・バタフライ」を発表。このアルバムにはリオーネル・エケ、スティーヴン・ウィルソンやカルロス・デルプエルト、ルイシート・キンテロといったアーティストもフィーチャリングされている。

1941年マサチューセッツ州生まれ。チックのクリエイティブなスピリットは留まることを知らず、彼自身も作品を通して自己改造し続けている。ニューヨーク・タイムズ紙は「才能があり、活気にあふれ、いつまでも青年のような人物」と称している。

オフィシャル・サイト <http://chickcorea.com/>



ピアノ
小曾根 真
 Makoto Ozone

©中村風詩人

1983年パークラー音大ジャズ作・編曲科を首席で卒業。同年米CBSと日本人初のレコード専属契約を結び、アルバム「OZONE」で全世界デビュー。

以来、ソロ・ライブをはじめゲイリー・バートン、ブランフォード・マルサリス、バキート・デリベラなど世界的なトッププレイヤーとの共演や、自身のビッグ・バンド「No Name Horses」を率いてのツアーなど、ジャズの最前線で活躍。

近年はクラシックにも本格的に取り組み、国内外の主要オーケストラと、バーンスタイン、モーツァルト、ラフマニノフ、プロコフィエフなどの協奏曲で共演を重ね、「比類のない演奏で、観客は魅了され大絶賛した」(北独ハノーファー新聞)など高い評価を得ている。

2010年、ショパン生誕200年を記念したアルバム「ロード・トゥ・ショパン」を発表し同名の全国ツアーを成功させ、ポーランド政府より「ショパン・パスポート」を授与される。

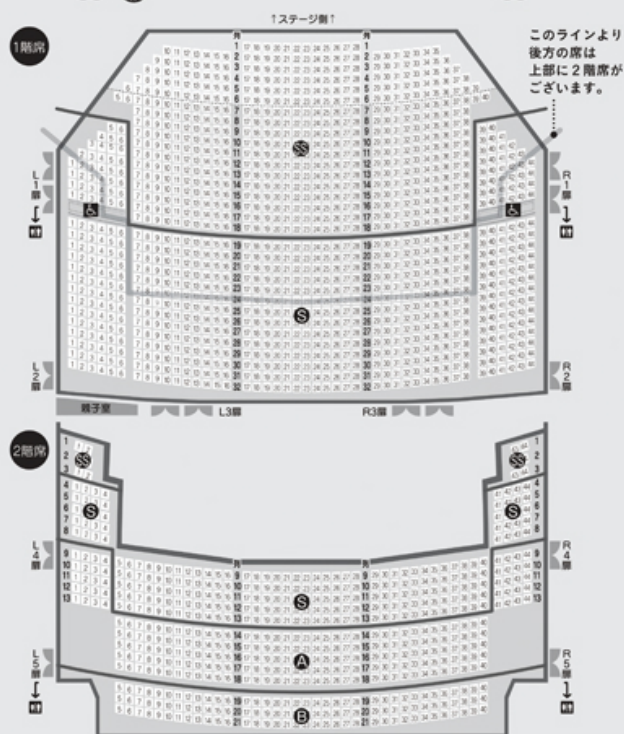
2014年にはニューヨーク・フィルのソリストに抜擢され、韓国、日本、ニューヨーク公演で共演。以来、サンフランシスコ響、デトロイト響、ラビニア音楽祭(シカゴ響)に招かれるなど、米国でも躍進を続けている。

2016年には、チック・コリアとの日本で初の全国デュオ・ツアーを成功させ、17年にはゲイリー・バートンの引退記念となる日本ツアーを催行。また、秋には10年ぶりに小曾根真THE TRIOを再結成し、最新アルバム「ディメンションズ」をリリース。また、11月には再びニューヨーク・フィルに招かれ、「バーンスタイン生誕100年祭」の定期演奏会に出演。アラン・ギルバートの指揮のもと、「不安の時代」とガーシェイン「ラブソディ・イン・ブルー」を3日連続で熱演し、リンカーン・センターの満場の聴衆から大喝采を得た。このライブ録音は、18年3月、ユニバーサル・ミュージックより「ビヨンド・ボーダーズ」と題して、小曾根真の初のクラシックアルバムとして、CDリリースを果たした。

映画音楽など、作曲にも意欲的に取り組み、多彩な才能でジャンルを超え、幅広く活躍を続けている。平成30年春の褒章において、紫綬褒章を受章。

オフィシャル・サイト <http://makotoozone.com/>

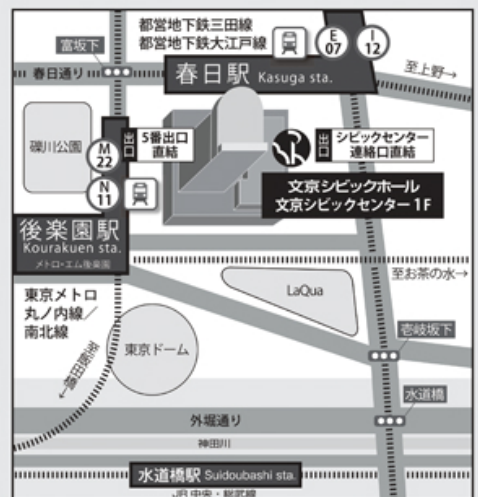
文京シビックホール 大ホール座席表



〒112-0003
 東京都文京区春日 1-16-21
 文京シビックセンター1階
<http://bunkyoivicichall.jp/access>

交通アクセス

- ・東京メトロ丸の内線・南北線「後楽園」駅 [直結]
- ・都営地下鉄三田線・大江戸線「春日」駅 [直結]
- ・B-ぐる (文京区コミュニティバス) 停留所1番
- 「文京シビックセンター」(春日駅前)



響きの森 プレミアム・コンテンツ

出演者のインタビュー、コンサートの聴きどころなど、コンサートが楽しくなる情報が盛りだくさん!!

